

第7回名張市立病院在り方検討委員会 議事録

日 時：令和5年1月19日（木）15:00～15:45

場 所：名張市立看護専門学校 講堂

出席者：（委員）竹田委員、佐久間委員、小引委員、田中委員、藤井委員

（オブザーバー）中尾 三重県医療保健部長、長崎 三重県病院事業庁長

（市・事務局）吉岡副院長、中西事務局長、辻川総務企画室長、池戸、武藤

欠席者：（委員）東委員、佐藤委員

発言者	内容
副院長	<p>少し定刻より早いですが、皆さんお揃いですので、これより第7回名張市立病院在り方検討委員会を開催いたします。本日は令和5年を迎えて初めての開催でございます。改めまして皆様、新年あけましておめでとうございます。本年も変わらぬご高配を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。</p> <p>はじめに、本日の出欠の報告でございますが、東委員、佐藤委員は所用によりご欠席との連絡を頂戴しております。このほか、佐久間委員はオンラインによるご出席をいただいております、委員会全体で過半数の出席を確認いたしております。</p> <p>また、委員の皆様には事前に本日の資料を配布しておりますが、東委員からは答申案の内容に賛成とのご意見をいただいております、佐藤委員からも修正等のご意見はございませんでした。</p> <p>続きましてお願いになりますが、出席者の皆様におかれましては、ご発言の際にマイクをお使いいただき、発言されない時はマイクの電源をオフにさせていただきますようお願いいたします。また、佐久間委員におかれましては、ご発言いただく際はミュートを解除いただきますようお願い申し上げます。</p> <p>以上でございます。それでは、記者の方で会議の写真を撮られる場合は、このタイミングでお願いします。</p> <p>（写真撮影）</p> <p>それでは、ここから先は委員長より進行をお願いします。</p>
竹田委員長	<p>皆さん、あけましておめでとうございます。コロナが終息していかない中、大変な時にお集まりいただきありがとうございます。第7回ということで、最後の委員会ということになります。どうぞよろしくお願い申し上げます。前回の第6回のときに答申（案）をご提示しまして、大筋はご了解いただいたと思っておりますが、その際にいくつかの質問をいただきました。今回はそれに対して修正を加えさせていただきましたので、これより修正点を1つずつ事務局からご説明いただいて、更にご意見をいただきたいと思います。事務局長お願いします。</p>
事務局長	<p>前回の委員会のご議論やご発言を踏まえまして、竹田委員長より修正のご指示をいただきましたので、ご紹介をさせていただきます。「答申案について」というタイトルの資料をご覧ください。文言の適正化といった軽微な修正もございますので、主要な部分に絞ってご説明させていただきます。資料の構成といたしましては、表の左側が前回の記述で、右側が修正案となっております。また、修正箇所が分かり易いように下線を引いております。上から順にご紹介させていただきます。</p>

	<p><b>(1) 市立病院の地域医療における役割に関すること</b></p> <p>まず、資料の2ページの表の一番上「(1) 市立病院の地域医療における役割に関すること」でございませう。こちらは、前回の委員会では「気軽に受診できる医療機関と救急医療の充実の両立は困難である」ことに対し、困難であるからどうするということが不十分であることのご指摘がございました。これを受けまして、紹介外来制と二次救急医療という地域医療支援病院としての役割を継続することをまず明文化し、さらに医療機関同士の機能分化、役割分担といった連携体制を確立する必要があるという構成になってございませう。</p>
竹田委員長	はい。ご説明いただいたとおりですけれども、役割に関して具体的な記述を行いました。いかがでしょうか。ご質問はございませうかね。お認めいただいたものとさせていただきます。次をお願いします。
事務局長	<p><b>◆伊賀地域の基幹3病院の連携について</b></p> <p>続きまして、「伊賀地域の基幹3病院の連携について」でございませう。答申(案)の1ページから2ページの記載になります。こちらには「地域住民の安心と安全を守ることは市の責務である」という記述がございませうが、この地域住民の中には、名張市民のみならず、名張市で働く方、観光などで名張市にお越しになる方も当然含まれているということを確認するための修正でございませう。</p>
竹田委員長	いかがでしょうか。市民というのは名張市民のことですね。市民以外の方の安心と安全も守ることです。よろしいでしょうか。では、次をお願いします。
事務局長	<p>続きまして、「二次医療圏の医療機関との連携について」と「小児科について」でございませうけれども、こちらについては軽微な修正ですので説明を省略させていただきます。</p> <p><b>◆産婦人科について</b></p> <p>次に、「産婦人科について」でございませう。説明資料3ページの一番上でございませう。この修正に関しましては、田中委員より、これまで市や市立病院が積み上げてきた関係者との協議状況と、本市が目指す方向性についての継続的な検討の必要性についてご意見を頂戴しまして、竹田委員長と文言の調整を行った部分でございませう。また、答申書の別の箇所で記述がございませう「患者需要の取り込み」と「診療領域ごとの役割分担」との整合性を踏まえ、婦人科の領域については、記述を分けられたところでございませう。</p>
竹田委員長	前回の案では断定的な書き方をしてましたので、私も言葉が強いかなという感じがしてました。事務局の方にお願ひしたのですが、今後、人口動態がどうなっていくか分かりませうし、名張市の人口も政策によって若い人が増えるかもしれませう。それに合わせて、将来の産科診療については、医師会や色々な所と協議して、継続して検討していく必要があるということ。それから、婦人科疾患というのは非常に大きなウェイトを占めてますので、他の診療科と同じように、将来的には整備しなければならない分野だと思います。ですので、このように少し含みを持たせた書き方にいたしました。いかがでしょうか。
田中委員	こちらにつきましては、委員長からご紹介いただきましたように、産科につきましては、本市の方でも市民のご意見を伺いながら継続して検討してきておりますので、前回の書き方から修正をいただきました。婦人科につきましても、前回の書き方では記載がなかったのが、検討をしていただけたということ、このような書き方にさせていただいてありがとうございます。
竹田委員長	そういう内容で修正しましたが、よろしいでしょうか。では、次をお願いします。

<p>事務局長</p>	<p><b>◆その他の診療体制について</b></p> <p>「その他の診療体制について」でございます。前回の委員会で、「高齢者の受診傾向として近隣の医療機関を受診する割合が高い」という記述に対し、外来か入院か、あるいは病院か診療所かという部分が不明瞭であるとのことのご意見がございました。これを受けまして、記述の元となるデータを参照し、「伊賀地域外の病院への入院」が課題であるという記述となっております。また、この項目では、将来の人口動態による需要の増加に対する体制構築の必要性も述べられておりますので、先ほど申し上げた患者流出による機会損失への対策と合わせて、「将来の医療需要や潜在的な医療需要に応えられるような診療体制の構築」という形で整理をされたところでございます。</p>
<p>竹田委員長</p>	<p>前回の答申案ではあまり具体性がないということですので、どういう疾患の患者が市外へ入院しているかという風に、より具体的な記述へ修正をいたしました。いかがでしょうか。では、次をお願いします。</p>
<p>事務局長</p>	<p><b>◆病床数の在り方について</b></p> <p>続きまして「病床数の在り方について」でございます。こちらも前回の委員会で、修正前の「急性期の集約化」という言葉が誤解を与えかねないとのことのご意見がございました。また、地域医療構想は大事ではありますが、委員長から「数字に囚われすぎてはいけない」とのご発言もございました。これらを踏まえまして、まずは名張市立病院が地域の中でどのような診療内容を担うかということをご可視化し、その後に地域の医療提供体制を見据えた連携、あるいは統合により、地域医療構想の実現を目指してはどうかという記述となっております。</p>
<p>竹田委員長</p>	<p>急性期機能の集約化という言葉が非常に曖昧で、意味が不明瞭なところもございます。回復期、慢性期といった部分もはっきりしないと。ということで、このように書かせていただきました。具体的にどうこうというのは書いていないのですが、将来の方向性は色々含みを持たせて考えていったほうが良いと思いますので、こういう表現になっています。</p>
<p>事務局長</p>	<p><b>◆委員会としての結論</b></p> <p>続きまして、資料4ページの「委員会としての結論」でございます。こちらは、経営形態を地方独立行政法人とすべきであるという結論の記述ですが、前回のご議論の中で、地方独立行政法人の「影響」という文言が、ネガティブな印象を与えかねないため表現を見直す必要があるとのことでしたので、「地方独立行政法人の特徴や法人化の効果」という表現に改められたところでございます。基本的に表現のみの変更で、意図されている内容には変更がないと認識しております。</p>
<p>竹田委員長</p>	<p>「影響」という言葉は、あまり良い意味では使われないのではということで、「特徴」や「効果」というポジティブな表現に変えたということです。よろしいでしょうか。次をお願いします。</p>
<p>事務局長</p>	<p>その他でございます。以下4項目を一括でご説明させていただきます。「経営の安定化と市の財政負担について」の部分は、より適切な文言への修正でございます。その次の「図表8」の修正は、病床数のデータを直近の地域医療構想調整会議の数字に改めたところでございます。続きまして、p14とp15の修正に関しまして、資料として付いている経営形態のメリットとデメリットの表の内容につきましては、一般的に知られるメリットとデメリットであり、委員会の意見ではないことを注記する必要があるとのことのご意見がございましたので、注釈を加えることとなりました。</p>

竹田委員長	<p>まず、「経営の安定化と市の財政負担について」のところは、「大学からの派遣に拘らない確保」という部分の表現が曖昧ですので、「大学からの派遣以外の方法も検討」となっております。この前、私から少しお話ししましたように、大学医局に属さずに色々な病院で働く医師が全国的に増えています。ですので、そういう医師にとっても魅力ある病院にすれば集まってくるということで、こういう表現にさせていただきました。あとは全て資料部分の修正です。</p> <p>以上が修正点になります。委員の皆さんはお目通しをいただいているかと思いますが、よろしければ、ここでご了解をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>ありがとうございます。ご了解をいただきました。現在の予定ですが、2月13日に市長へ答申書を提出してまいります。一番大事なものはこれからです。これは出発であって、いかに名張市立病院の組織を変えるかということです。組織を変えても市立であることは変わりません。市と一緒に病院の運営をやっていかねばいけません。もちろん運営費交付金も入れて、救急や小児科など採算が取れない部門には補助が必要です。更には組織を変えて自由度を上げて、診療の質を上げていく。より良い診療と患者サービスを実現する。それから職員の待遇の改善。そういうことに積極的に取り組んでいけば、その後に収支が付いてきます。これが、私が三重大と桑名市総合医療センターの法人化を経験して一番強く感じたことであります。ぜひ、病院長をはじめとする職員の方々、名張市の方々、それから名張市民の方々は頑張ってください、良い病院が作れるようご尽力いただきたいと思います。</p> <p>昨日、東京から来たコンサルの方と話をしていたのですが、コロナの後どうなるかということ、病院の理事長や院長は非常に心配しています。コロナ前と比べて、再編、統合、連携といった話や、組織形態を見直して法人化するとか、そういう話が非常に増えているそうです。やはり、今動かないとポストコロナは大変なことになりますので、頑張ってくださいと思います。</p> <p>そういうことで、計7回に渡りお付き合いいただきまして、ありがとうございました。ちょうど1年で終わりにになりましたけども、ご意見やご質問がございましたらご発言ください。小引委員は何かございますか。</p>
小引委員	大丈夫です。特にはございません。
竹田委員長	藤井委員はいかがですか。
藤井委員	<p>ありがとうございました。私は院長に就任して4年ちょっとになるのですが、ここの体制以外はあまり知りません。大学病院にいた時は、医療機器や最新の病室設備を入れていただくことは大変ありがたく思っていて、入れることで診療が改善され、携わるスタッフも増えてきたということを経験してきました。市立病院の場合、医療機器を入れるにしても予算が限られている中では厳しいという状況があります。これがうまくいくかということは、私自身まだよく分からないので、色々な病院を訪問して教えていただきたいなと思っていますが、今回の答申案には賛同をさせていただきました。</p> <p>ただ、1つ懸念する点としましては、コロナ病床に関して、名張市では寺田病院さんも最近受け入れてくれるようになりましたが、当院の200床という少ない病床数の中で、コロナ病床を確保するのに苦労しています。救急医療や地域医療を守りながら、コロナも受け入れていくというのは非常に大変なこととして、コロナ病棟の患者が増えてくると、予定入院や予定手術の患者さんには待ってくださいと何度もお願いしたところ。それから11月、12月には当院で院内ク</p>

	<p>ラスターが発生しまして、救急が受けられず、開業医の先生方からの紹介も受けられないといった経験もしました。地域医療構想のこともありますので、病床数を増やすのが難しいのはよく分かっているのですが、こういった感染症が発生したときは、患者を受けられる分の病床は増やしたいなという思いはあります。この点は当院だけではなく、伊賀地域の3病院で相談しながらやっていくことが必要なのかなと思います、感染症に対応するには病床が少ないのかなと思います。</p> <p>それから、答申の診療科に関するところで、もちろん不採算部門はやっていくのですが、それ以外の診療科で他の地域に流れてしまっている患者さんを、何とか市内で完結できるような医療をしていくということで。どのような疾患に力を入れていくかという点は、これから検討していく必要があると思いますので、そういったことを柔軟にできるような組織になると良いのかなと考えています。</p>
竹田委員長	<p>今のお話に関連して、県内の地域医療構想は8医療圏にありますけども、去年あたりから、小さい病院ではコロナと救急は一緒にやれないということ、どこの病院も言っています。県には何回も言っているのですが、コロナは1つの医療圏でやるのは無理です。三重県全体、あるいは愛知県や岐阜県と組んで広域にやらないといけません。パンデミックな感染症に関しては、県全体で体制をとるべきであろうと。今週の火曜日に三重県病院協会の理事会があったのですが、パンデミック感染症の班を作りまして、県立総合医療センターの新保先生に長になっていただきました。コロナが今後どうなるか分かりませんので、病院協会でも準備しようという話をしています。ですので、藤井委員が言われたように、200床の病院でコロナと救急を一緒にやるのは無理です。400床の桑名でも無理ですから。全域で考えないといけなと思っています。</p> <p>それから、地域医療構想で病床数の制限がありますが、私はあまり拘ってはいけなと思っています。現在の国の人口動態を見て決められています、今後どうなっていくかは分からないわけです。例えば名張市立病院にベッドを集中して、大きくしないといけなくなるかもしれません。今の病床数を絶対に増やすことはできないとは考えず、病院の今後の方向性を策定したいと思っています。</p> <p>他はよろしいでしょうか。1年間ありがとうございました。私も当分は現役でやっているといますので、名張市立病院が良くなるためにお手伝いや貢献ができたらいいなと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。それでは、早いですが終わりたいと思いますが、中尾さん、最後に何かございますか。</p>
中尾部長	<p>ありがとうございます。前回11月17日は参加できなかったのですが、議事録を読ませていただきました。今日も修正点をご説明いただいた中で、私の方からは3点ほど言わせていただきたいと思っています。</p> <p>まず、本来はこの病院の組織をどうするかということですが、委員長が言われたように、組織があった上で今後どうしていくかが大事であるということでした。まだコロナの終息が見えていない状況ですが、令和5年度は医療計画の策定の年でもありますし、中断していた地域医療構想につきましても、議論を深めていただかなければならない状況でございます。具体的な地域医療構想の目標病床数は、あくまで目安ということで、以上でも以下でもないという中ではありますが、今後の地域における対処方針であったり、公立病院のプランであったりを作っていたかなければならないというのが令和5年度になります。前回の議事録を読ませていただきます</p>

	<p>と、何々であれば名張、何々であれば岡波、何々であれば上野市民というようなことも考えていかななくてはならないというようなご発言もございました。地域医療構想はあくまで地域の中の役割分担ですので、そういった件を考えていただくということが1点目。</p> <p>それから医療計画につきましても、5疾病5事業、在宅医療等のそれぞれの分野の議論になります。今回、産婦人科に関して言及がありましたが、平成29年度に、私が医療計画の担当課長をしていました頃、名張の産婦人科、具体的には分娩をどうするかという非常に大きな議論がございました。今の医療計画を作る中で、周産期医療をどうしていくかという議論だったかと思えます。今回、現在は必要性が低い中でも継続して議論していく必要があるということで、田中委員も言われたように、県内でも伊賀地域や東紀州の地域は周産期についての課題がありますので、来年度の医療計画の議論の中で、県全体でどうしていくかということについて、色々意見をおっしゃっていただければと思っております。</p> <p>最後3点目は医師確保に関してですが、こちらの修正案で記載いただいたように、積極的にアピールして大学からの派遣以外の方法も検討すべきということですが、まさしくそれは、こちらの病院だけではなく県全体でも考えるべきだと私も思っております。三重大学医学部の中である程度コントロールできる部分もありますが、今後は、県外にいらっしゃる県内出身者の雇用であるとか、県外にいらっしゃる県外出身者がIターンで来ていただけるとか、そういった視点も持たないと医師確保の総数に限界があると思えます。三重県全体では、人口減対策として移住促進というようなこともしております。「おいないねっと」という無料の職業紹介のホームページがありますが、医師を求めている医療機関が登録して、それを見た医師が来ていただけるという風にはなかなかならないと。県外から来ていただくためには、三重県に住むこと自体に魅力があるとか、家族の方々が三重県に来ていただくことに対して魅力を感じなければ、広がりがないと思っておりますので、こちらの病院からアピールするというのであれば、県も三重県をアピールして、医師とその家族の方に来ていただけるような方策を考えられないかと思っております。また一緒になって考えさせていただければと思えます。</p> <p>地域医療構想と医療計画、それから医師確保を抱合してやるのが令和5年度と思っております。こちらの病院だけではなく各地域の普遍的な問題でもありますので、今後とも協力をよろしくお願ひしたいと思います。</p>
竹田委員長	長崎さんはいかがですか。
長崎庁長	県立病院改革を経験した立場から1点だけ申し上げます。今回の答申を受けて、これから市の内部で色々検討されて、その過程で市民の方々や議会へ説明し議論することになると思えますが、その間も現場の職員の皆さんが置き去りにならないよう、意識いただければと思えます。
竹田委員長	田中委員からは最後に何かございますか。
田中委員	市の実情としましては、なかなか財政的には厳しい中で、本日色々ご指摘いただいた医師確保という部分での支援や、財政的な支援も改めて検討しながら、病院改革と一緒に進められればと思っております。
竹田委員長	佐久間委員からは一言ございますか。
佐久間委員	非常に重要な答申になったかと思えます。大学の立場から見ましても、重要なポイントが含まれている答申になっていると思えます。先ほど議論に出ましたように、大学の医局派遣で地域医療を支えることに限界があるというのは明らかですので、県全体、そして各地域の病院、また三

	<p>重の未来図会議というのも学長の主導で開かれますので、大学病院とそれぞれの地域の皆さん、そして県と行政の皆さんとお話をして、大学ができることはきちっと行って、総合的に考えていきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。</p>
竹田委員長	<p>ありがとうございました。佐久間先生には今後ともご指導をお願いしたいと思います。</p> <p>委員の皆さんからお話をいただきました。これで委員会を終わりにしたいと思います。2月13日には、私の方から市長へ答申書をお渡しします。本日はどうもありがとうございました。</p>
副院長	<p>在り方検討委員会としての答申を決定いただきました。今後につきましては、委員長がおっしゃったように、2月13日に市長への答申をご提出いただくこととなります。これをもちまして、在り方検討委員会は全日程が終了となりました。委員の皆様、オブザーバーの皆様におかれましては、約1年間にわたり名張市立病院の将来を見据えたご議論をいただき、答申を取りまとめていただきまして誠にありがとうございます。名張市立病院といたしましても、藤井院長を中心に職員が一丸となって、市民や患者の皆さんに親しまれる病院となれるよう、取組を進めてまいりたいと思います。引き続きご指導、ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。</p>